
王子様と魔女

ナオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

王子様と魔女

【コード】

N3940I

【作者名】

ナオ

【あらすじ】

ある日、王子様は美しい姫を見つけます。
でも、実はその姫は…。

(前書き)

短編です。

少しだけ残酷な場面があります。

深い深い森の奥、ポツリと建つ古びた塔の中に、一人の美しいお姫様がおりました。

ある日、古びた塔に隣の国の王子様がやって来きて、

「なぜ、あなたはこんな所にいるのです？」

と、お姫様に尋ねました。

「・・・私は、悪い魔法使いにとらわれてしまったのです。」

お姫様は美しい瞳に涙をためて言いました。

「それは、可愛そうに……。」

「私は大丈夫です。それより、あなたが心配なのです。そろそろ魔法使いが帰ってきます。」

無理に笑って言うお姫様がいらしくて、可愛くて、王子様は一目で好きになってしまいました。

「ならば、私があなただけを助けましょう。」
お姫様は少しだけビクリした顔をしましたが、すぐに悲しそうな顔をして首を横にふります。

「私が居なくなれば、魔法使いは必死になって探すでしょう…。あなたの国にもご迷惑がかかってしまいます…」

しかし、王子様はニッコリ笑いお姫様を抱き上げて言いました。

「そんな事はありません。あなたは私が守りましょう。」

王子様はお姫様を繋いでいた鎖を切り、塔のそばに繋いでおいた白馬に乗せ、自分の国へと連れて帰りました。

大臣達や召し使いは、ビックリしましたが可愛らしい姫を見てすぐに好きになってしまいました。

「父上。母上。私はこの美しい姫を后にしたいと思います。」

王子様がそう言うと、王様もお妃様も笑顔で頷く。

すぐに婚礼の準備が整い、その日のうちに結婚式が行われました。

そして、その日の夜。

王子様はおやすみの挨拶をするためにお姫様の部屋を訪れました。

2人はお姫様が淹れた紅茶を飲みながら話をしていましたが、王子様は紅茶を飲み終わったとたん強い眠気におそわれた。

朦朧となる王子様を見て、お姫様は怪しく笑い王子様に話しかけた。

「ああーあ、せっかく静かに暮らしていたのに。」

「…ねえ、王子様、ありがた迷惑、って言葉をご存知かしら？」

「ひ…め…君は…な…にを」

消えつつある意識の中、王子様が最後に感じたものは

「悪い魔法使い、なんて、嘘に決まっているじゃない。
それに、私は、姫、じゃないわ」

という愛しい姫の囁きと、腹部に突き刺された短剣の冷たさだった。

（後書き）

読んで下さってありがとうございます。

感想やご指摘などありましたら、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3940i/>

王子様と魔女

2010年10月19日07時57分発行